

第 14 回（令和元年度）

江戸川大学 簿記コンクール

問 題 用 紙

（制限時間 1 時間）

## 第1問(20点)

次の取引について仕訳しなさい。ただし勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	普	通	預	金	当	座	預	金	売	掛	金	
未	収	入	金	前	払	金	受	取	商	品	仮	払	金
建			物	土		地	支	払	手	形	買	掛	金
未	払	金	前	受	金	仮	受	金	借	入	金	益	
資	本	金	売		上	受	取	利	息	雑		益	
仕			入	消	耗	品	費	修	繕	費	租	税	公
支	払	利	息	雑		損		固	定	資	産	売	却
								損					益

1. 建物の改築と修繕を行い、代金 20,000,000 円は小切手を振り出して支払った。うち建物の資産価値を高める支出額（資本的支出）は 16,000,000 円であり、建物の現状を維持するための支出額（収益的支出）は 4,000,000 円である。
2. 本日、松田商店株式会社に対する買掛金 530,000 円および売掛金 270,000 円の決済日につき、松田商店株式会社の承諾を得て両者を相殺処理するとともに、買掛金の超過分を小切手を振り出して支払った。
3. 得意先広島株式会社の商品 400,000 円を売り上げ、代金のうち 130,000 円は共通商品券で受け取り、残額は同店振り出しの小切手で受け取った。
4. 取引銀行から借り入れていた 7,300,000 円の支払い期日が到来したため、元利合計を普通預金口座から返金した。なお、借入にともなう利率は年 2.5%、借入期間は 100 日間であり、利息は 1 年を 365 日として日割り計算する。
5. 先月に株式会社宮島商会より建物 3,000,000 円と土地 10,000,000 円を購入する契約を締結していたが、本日その引き渡しを受けた。購入代金のうち 1,300,000 円は契約時に仮払金勘定で処理していた手付金を充当し、残額は今月末に支払うこととなった。

## 第2問(10点)

次の文章のうち、正しいものには「○」誤っているものには「×」をつけなさい。なお、全て「○」もしくは「×」と回答した場合には、全問不正解とする。

① 貯蔵品とは、事務用品などの比較的金額が小さく、短期的に消費される物品をいう。
② 土地や建物などの売買にあたり差し入れた保証金は、差入保証金勘定で処理する。
③ 企業の主たる営業活動以外の取引によって生じた債務は未払金勘定で処理する。
④ 株式会社が、新たに資金調達をするために株式を発行することを増産という。
⑤ 3 伝票制において、1 つの取引が入出金取引と入出金以外の取引の 2 つからなる取引を混合取引という。

### 第3問 (10点)

次の仕入帳と売上帳にもとづいて、(1) 移動平均法により商品有高帳を記入しなさい。また、(2) 先入先出法で7月中の売上原価と売上総利益を計算するため下記の( )内に適当な金額を記入しなさい。なお、商品有高帳の締切りを行う必要はない。

#### 仕 入 帳

令和元年		摘 要			金 額
7	7	高松商会株式会社	ワイシャツ 60枚	@7,000円	420,000
	18	松山商会株式会社	ワイシャツ 80枚	@7,200円	576,000

#### 売 上 帳

令和元年		摘 要			金 額
7	14	徳島商事株式会社	ワイシャツ 80枚	@9,000円	720,000
	24	高知商会株式会社	ワイシャツ 60枚	@9,500円	570,000

### 第4問 (10点)

次の各文の( ① )～( ⑩ )の中に当てはまるもっとも適当と思われる語句を下記の語群から選び、記号で答えなさい

1. 株式会社の資本は、株主からの出資額を表す( ① )と、経営活動から獲得した利益の留保額を表す繰越利益剰余金に区別して表す。
2. 企業の経営活動の結果、期末資本が期首資本より大きくなった場合、( ② )が生じ、期末資本が期首資本より小さくなった場合、( ③ )が生じることになる。
3. 現金・商品・建物などの( ④ )や、売掛金・貸付金などの( ⑤ )を資産といい、この総額から、買掛金や借入金などの( ⑥ )を表す負債の総額を差し引いた額を資本という。
4. 売上・受取利息・受取手数料など、経営活動の結果として資本が増加する原因を( ⑦ )といい、給料・広告宣伝費・旅費交通費など、資本が減少する原因を( ⑧ )という。
5. 企業の一定時点における財政状態を表す計算書を( ⑨ )といい、一定期間における経営成績を表す計算書を( ⑩ )という。

#### 【語 群】

A. 財 務 諸 表	B. 利 益	C. 当 期 純 損 失	D. 債 務
E. 資 本 金	F. 貸 借 対 照 表	G. 収 益	H. 費 用
I. 当 期 純 利 益	J. 財 貨	K. 損 益 計 算 書	L. 債 権

第5問（10点）

次の固定資産台帳にもとづいて、空欄①～⑩に当てはまる適切な金額または勘定科目を答えなさい。  
 当社は、定額法（残存価額はゼロ、間接法で記帳）により減価償却を行っており、固定資産を期中取得した場合には減価償却費は月割計算で計上する。なお、当社の決算日は毎年3月31日であり、当期は平成30年4月1日から平成31年3月31日までである。

固定資産台帳

平成31年3月31日

取得年月日	種類 用途	期末 数量	耐用 年数	取得原価	減価償却累計額			期 末 帳簿価額
					期首残高	当期増減高	期末残高	
平成28年4月1日	備品A	4	5年	1,400,000	560,000	( ② )	(各自計算)	( ⑤ )
平成29年7月10日	備品B	1	4年	576,000	( ① )	( ③ )	(各自計算)	(各自計算)
平成30年6月1日	備品C	2	8年	720,000	0	( ④ )	(各自計算)	(各自計算)

備 品

H30/4/1 前 期 繰 越 ( ⑥ )	H31/3/31 次 期 繰 越 ( ⑦ )
H30/6/1 未 払 金 ( )	
( )	( )

備品減価償却累計額

H31/3/31 次 期 繰 越 ( )	H30/4/1 前 期 繰 越 ( ⑧ )
( )	H31/3/31 ( ⑨ ) ( ⑩ )
( )	( )

## 第6問( 22 点 )

次の【Ⅰ：決算日に判明した未記帳事項等】および【Ⅱ：決算整理事項】について仕訳を下さい。ただし、勘定科目は、【答案用紙】第7問の精算表に記載されているものを使用すること。なお、会計期間は平成30年4月1日から平成31年3月31日までの1年間である。

### 【Ⅰ：決算日に判明した未記帳事項等】

1. 決算日までに、得意先からの掛代金200,000円の振り込みが取引銀行の当座預金口座へ行われていたが未処理である。
2. 決算日前に商品の掛販売150,000円を行っていたが誤って現金販売として処理していた。

### 【Ⅱ：決算整理事項】

1. 当座預金勘定の貸方残高全額を当座借越勘定に振り替える。なお、取引銀行とは借越し限度額を1,000,000円とする当座借越契約を締結している。
2. 売掛金の期末残高に対して1%の貸倒れを見積もり、差額補充法により貸倒引当金を設定する。
3. 期末商品棚卸高は650,000円である。なお、売上原価は「仕入」の行で計算すること。
4. 建物について、残存価額はゼロ、耐用年数は30年として定額法により減価償却を行う。なお、建物勘定には期中10月1日に取得し、同日より使用を開始しているものが10,800,000円含まれている。期中取得建物の減価償却は、当期以前より使用しているものと同様の条件で行うこと。
5. 収入印紙20,000円及び郵便切手15,000円の未使用高があるため、貯蔵品として計上する。
6. 保険料は、建物に対する損害保険料である。従来から使用している建物に対しては4月1日に1年分270,000円、10月1日に取得した建物に対しては同日から1年分80,000円を支払っている。よって、次期にかかる費用を月割計算し、前払額として計上する。
7. 当期(3月分)にかかる法定福利費の発生額25,000円(納付は翌月)を未払計上する。
8. 借入金は、前期の2月1日に年利率3%、利払日は年1回(1月末)の条件で借り入れたものであり、当期の利払い日には1年分の利息を支払っている。決算日までの利息未払額を月割計算により計上する。
9. 法人税、住民税及び事業税が280,000円と算定されたので、仮払法人税等との差額を未払法人税等として計上する。

## 第7問( 18 点 )

第6問の決算整理事項等の仕訳にもとづいて、答案用紙の精算表を完成下さい。